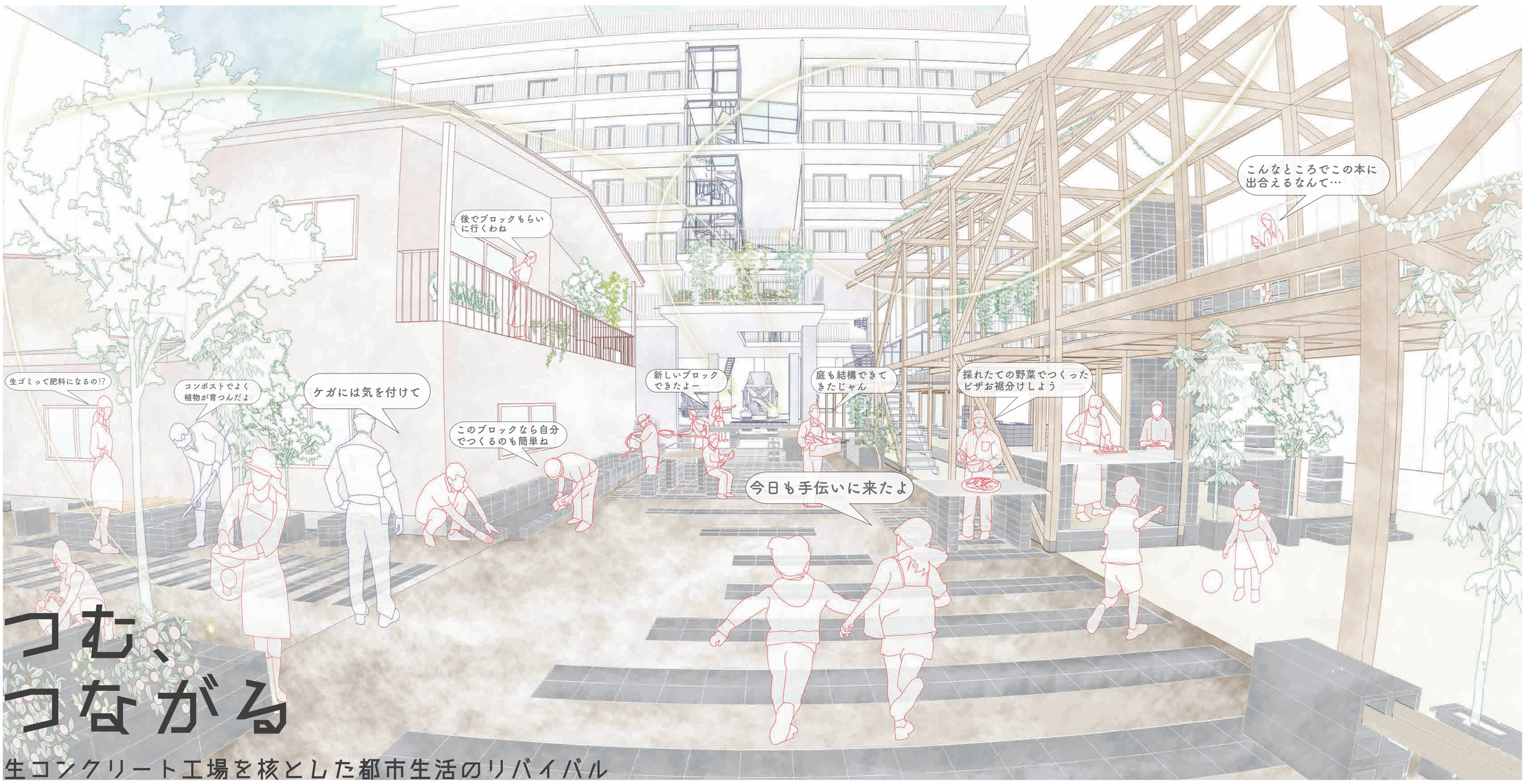
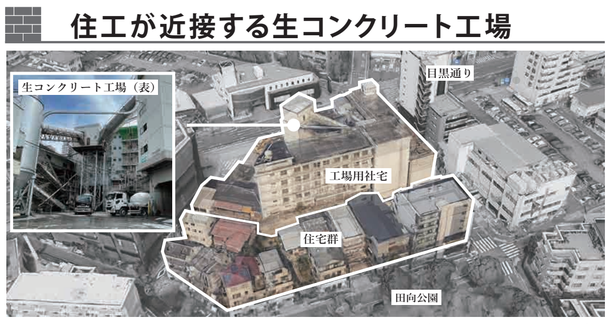


つむ、つながる

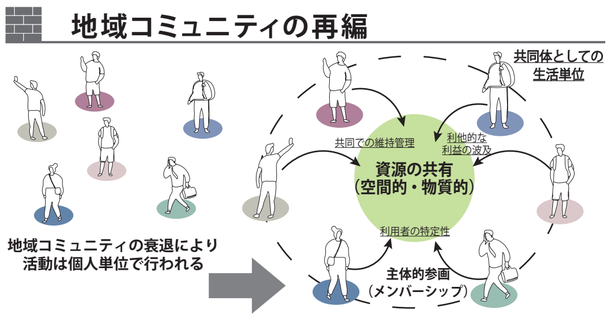
生コンクリート工場を核とした都市生活のリバイバル

住工が近接する生コンクリート工場



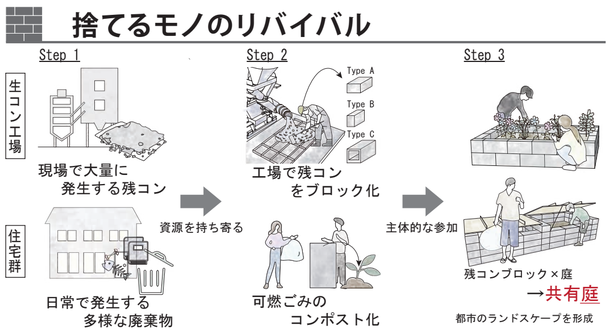
目黒区に位置する生コンクリート工場周辺を選定。工場は社員住宅が併設し、住空間に囲まれているため過密化しながら住工近接する都市の形態を象徴する。生活の拠点となる住空間側から計画を行い、都市における職と住の分断された関係性を再構築していく。

地域コミュニティの再編



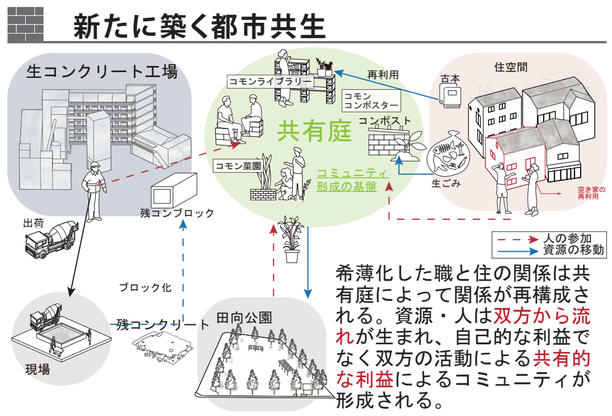
地域コミュニティの衰退により生活は個人単位で完結する場合が多くなった。そこで共有の資源（空間・物質的）に対し住民が参加するシステムによって地域コミュニティを再編し、コミュニティを形成する場を構築する。

捨てるモノのリバイバル



日常で発生する捨てるモノを共有の資源とし、自ら資源化・空間構成することで共生関係を構成していく。主体的に維持・管理を行うことで個人的な庭が共有庭に変容する。

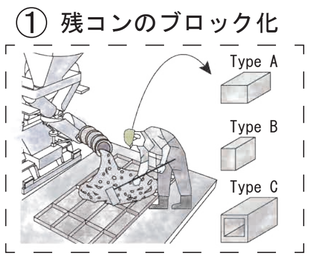
新たに築く都市共生



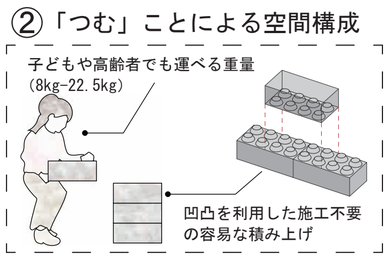
希薄化した職と住の関係は共有庭によって関係が再構成される。資源・人は双方から流れが生まれ、自己的な利益でなく双方の活動による共有的な利益によるコミュニティが形成される。

「つむ」ことで「つながる」 残コンブロックによる職住間のふるまい

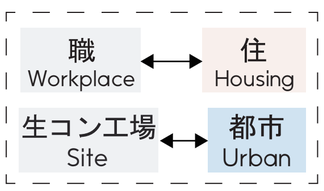
① 残コンのブロック化



②「つむ」ことによる空間構成



③「つながる」職と住 そして建築と都市



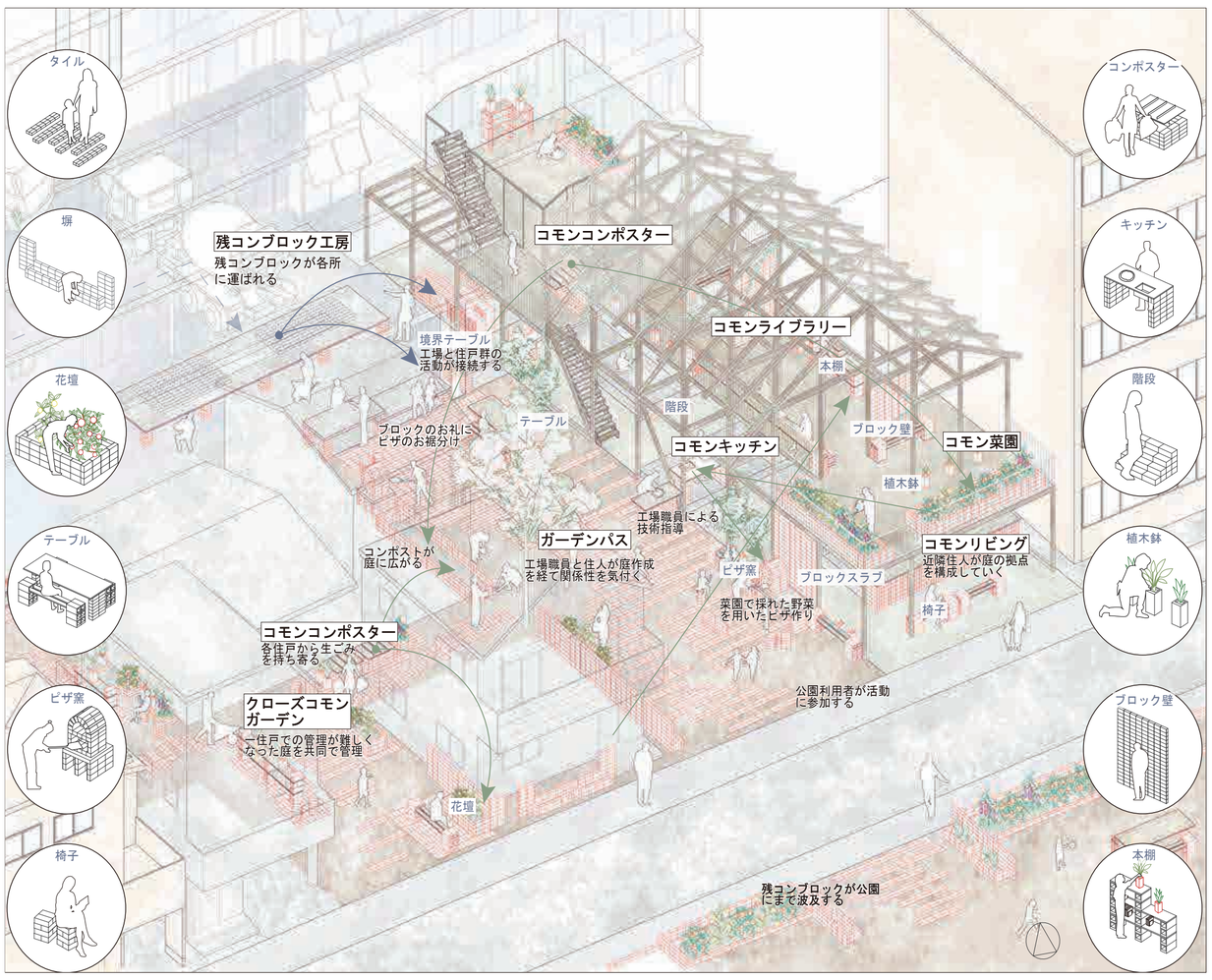
工場で作成した残コンブロックは住民へ引き渡される。住民は工場職員の手を借りながら、ブロックの上下面の凹凸による噛み合わせで積み上げていく。空間構成という活動を通してコミュニティを形成し、作られた共有庭は地域のコミュニティハブとなる。

住工が近接する 生コンクリート工場

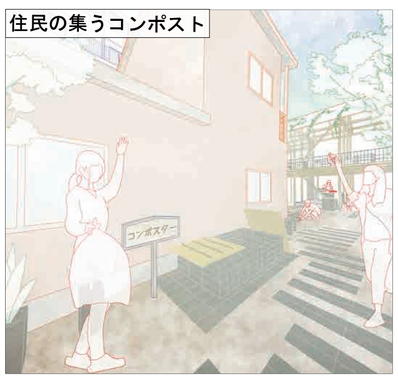
これからの都市における職と住の共生によるコモンズとは

廃棄物・コミュニティの再生するリバイバルネットワークの波及

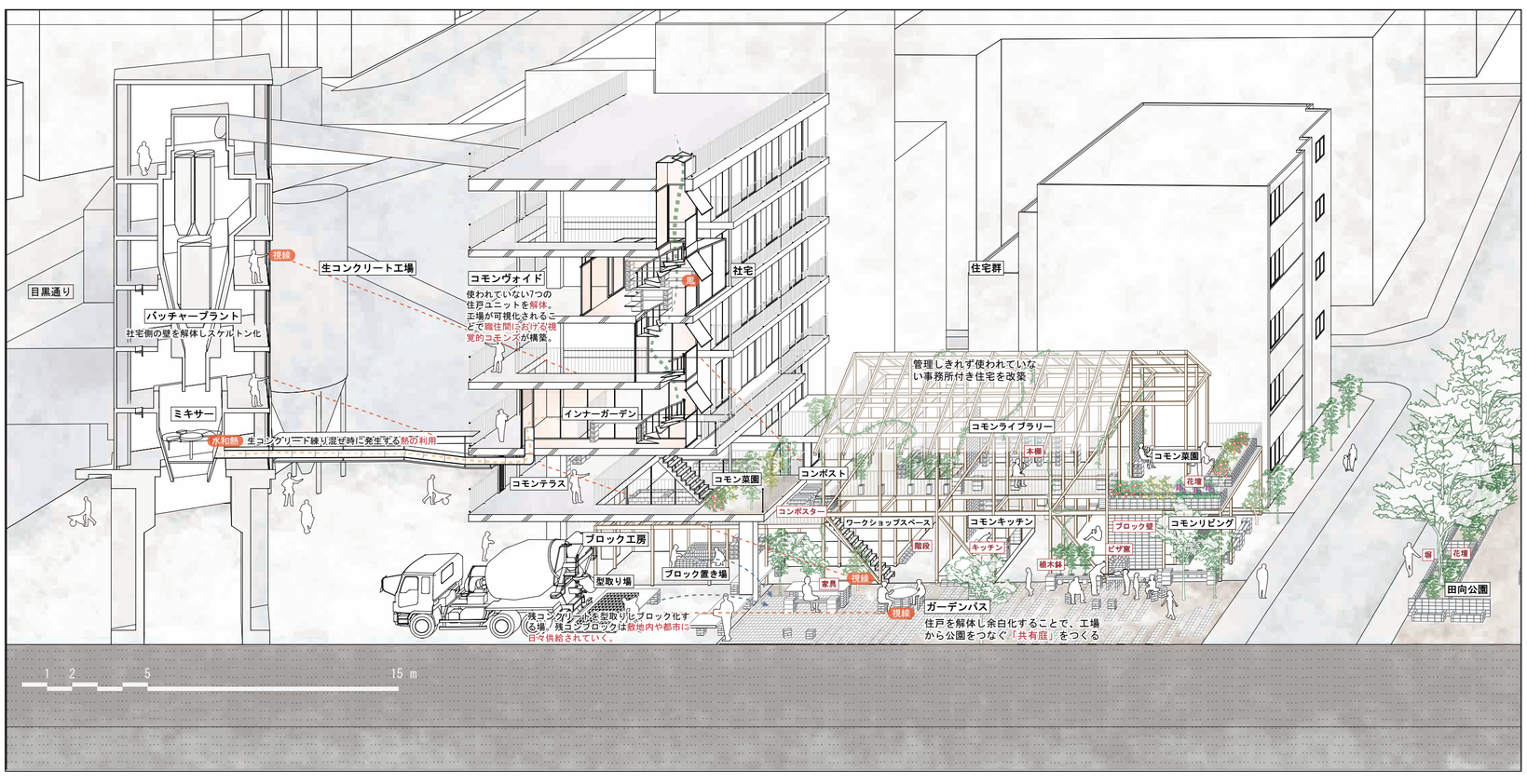
➡ 都市に住まう人の参画による地域コミュニティの再編により都市のランドスケープが構成される



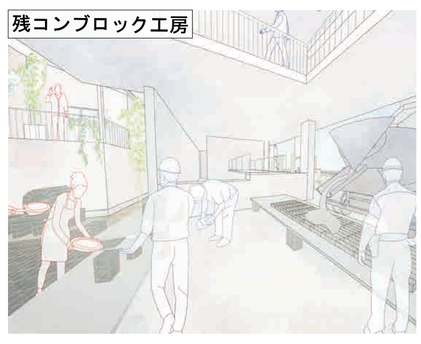
住民の集うコンポスト



工場職員と住人のワークショップ



残コンブロック工房



住戸所有の庭